



こうか
まちかど特派員

はぐる
歯黒あずさ



人、モノに触れ合う楽しみ

私の「信楽まちなか芸術祭」の歩き方

信楽まちなか芸術祭がいよいよ開幕します。地元の人間として、魅力いっぱい信楽を多くの方に体感してもらおうことがとても楽しみです。今回は信楽で生まれ育った私自身が思う楽しみ方を紹介します。

車で信楽町へ入ったら、FMラジオを77.5MHzに合わせてください。トリエンナーレのために開局したFMしがらきがイベントや道路情報を流しています。国道307号をしばらく走るとやがてたぐさんの陶器のたぬきたちが並ぶ信楽ならではの風景がお出迎えます。

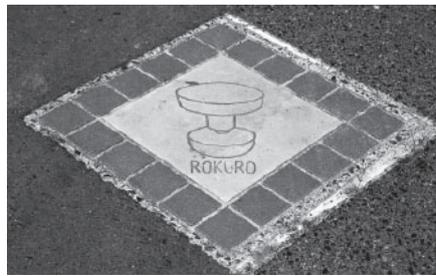
信楽の道は、国道を外れると細い道が多いから、ゆっくり歩いて回るのが一番です。普段愛車を利用する地元の人でも歩いて町の中を散策すると新たな発見もたくさんあります。のどかなまちなかをゆっくり楽しんでください。

信楽に来るには車の他に信楽高原鐵道があります。JR貴生川駅から終着の信楽駅まで約30分、ディーゼル車に揺られるのもいいものです。トリエンナーレにちなみ3,000枚限定で駅弁ならぬ駅煎がプレゼントされています。

駅を降りると大きなたぬきがお出迎えてくれます。歩道のタイルはもろろん信楽焼をイメージしたものが敷かれています。各所に設けられたインフォメーションではマップが準備されています。

駅前の道を真っすぐ進み、新宮神社横から始まる窯元散策路、ここでは地面にも注目です。

道には散策路のコース毎に「TUBOO」、「KAMAZUME」、「ROKKURO」と書かれた3種類のシンボルマークが埋め込まれています。



▲道路に埋め込まれたシンボルマーク

窯元散策路のある長野地区には、窯元がたくさん並んでいます。インフォメーションセンターで当日見学可能な窯元のお知らせがあるそうです。のぞいて「見せてください」と声を掛けると優しく対応してもらえます。親や家族の仕事をしている姿を見る機会がない最近、ひとつのものがこつこつと土から形になっていくのを見ることは、家族連れなら学びの場にもなりそうです。

ROKKUROのタイルが埋め込まれたろくろ坂という道を上ると途中

左側に登り窯が見えてきます。ここは、私が中学校の時に写生をしに来たお気に入りの風景で、信楽に来たときの記念写真にお勧めです。このあたりにはサヤという登り窯で陶器を焼く時に使う台が塀代わりに並んでいるたぐすまいがあります。丸い穴が開いてある塀がこちらこちらで見つかるはずですので探してみるのも面白いです。



▲サヤが並ぶ民家の塀

ろくろ坂の頂上を越えると、KAMAZUMEのタイルが埋め込まれた窯場坂が左に続きます。5分ほど歩いてちよつと寄り道。そこは、おもてなしのお店の敷地内でもある場所ですが、ここから向かいの山を眺めると、大仏さんが仰向けに寝ているように見えます。

信楽を見渡せる代表的な場所に陶芸の森があります。広い芝生の上でお弁当を食べたり、期間中の様々なイベントを見学していくのも楽しいです。

信楽焼の歴史は奈良時代までさかのぼります。日本ではじめて出土した万葉歌木簡や都の遺物がたくさんある紫香楽宮。はるか昔のことを空想しながらたぐさんの緑の中です。す時間もいいもの。歴史マニアだけでなく私たちも楽しめます。

山の斜面に鮮やかな緑が広がる朝宮の茶畑。小学校の時に町内巡りで見学に行ったことを思い出します。毎年新茶を売るのが楽しみです。ここで信楽焼の湯飲み茶碗で朝宮茶をいただきます。ほっこりと過ごす時間も格別です。

魅力いっぱいの信楽の里、深まりゆく秋ならではの彩りや夕焼けがより幻想的に映し出してくれることでしょう。そんな秋の信楽を、ぜひ信楽まちなか芸術祭で満喫してください。